

気愛

パリ日本人学校 中学部3年A組

学級通信 第20号

2025年9月24日発行

parinichi.takahashi6@gmail.com

青少年の主張大会が行われました

19日に青少年の主張大会がありました。3年生の代表は、宇佐見さんと吉宮さんでした。パリ日祭の準備と並行して、練習をするのは大変だったと思いますが堂々とした発表でした。また、聴衆も真剣に発表を聞いて、自分の考えが広がった人も多かったと思います。

2週にわたって代表者の作文を掲載します。今週号では、裏面に宇佐見さんの作文です。ぜひお読みください！



パリ日祭の練習頑張っています！



10月の予定

- 1日(水) 創立記念日・全校朝会
- 2日(木) スピーチコンテスト
- 5日(日) 第2回英語検定1次試験
- 11日(土) パリ日祭
- 13日(月) 振替休業日
- 17日(金) 生徒会立会演説会・選挙
- 20日(月)～24日(金) 三者面談
- 30日(木) 生徒総会

☆10月の三者面談では、受験する高校について話し合います。ご家庭でよく話をしてみてください。

9月29日(月)～10月3日(金)の時間割

中3	パリ日タイム	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	バス時刻
29日(月)	クラスの時間	理科	家庭科	外会話	美術	国語	数学	パリ日祭	16:40
30日(火)	委員会	国語	社会	英会話	音楽	英語	国語	体育	16:40
1日(水)	朝の運動	体育	数学	英語	社会	数学	パリ日祭		15:40
2日(木)	クラスの時間	国語	数学	英会話	TEDtalk	理科	英語	パリ日祭	16:40
3日(金)	クラスの時間	社会	音楽	英語	理科	体育	パリ日祭		15:40

9/19(金) 青少年の主張大会

優秀賞 「理解しよう、とすること」

宇佐見 遥花



「尊重する」という言葉がある。その人がもっているものを、価値あるものとして大切に扱うこと。価値観や考え方が違う人々が同じ地に暮らし、かかわりあっているなか、「尊重する」という気持ちをもつことは、お互いに良好な関係を築き、信頼しあうために必要不可欠なことだ。私たちが住むパリでは、母語や生活文化の異なる人々が同じ地区に暮らし、ごく自然に言葉を交わす景色が見られる。そんな場所で通い始めた英語のスクールで、私は、まったく新しい形の「尊重する」行為に出会った。

はじめて入った教室にいたのは、みんな私と同年代のフランス人の女の子だった。授業は、先生が用意した議題に対して、2、3人で意見交換する、というものから始まった。ペアになった女の子に自分の意見を述べて、「あなたはと思う」と聞いた時のことだ。彼女は「私はその意見に賛成できない、この視点から見たら十分だとは思えない」と言い出したのだ。私は彼女の行動に、戸惑いと反感を覚えた。日本の学校では、意見の相違が見られた際には、相手の意見を一度肯定してから、自分の論を展開するのが主流だ。その根底にあるのは、たとえ相手と自分の意見が違って、相手の発言を大切に思い、傷つけないようにする、という繊細な心遣いであり、また人としての美德だ、と出てきた。だから、遠慮なく反論してきた彼女を、自己主張が強く、思いやりに欠ける人だ、と思い、話し合いの時間にも苦手意識がついてしまった。

しかし、通い続けているうちに、相手の発言に質問や指摘をするのは、彼女たちが相手の意見を否定しようとしていることではない、と分かってきた。そこにあるのは「これについてはどう思うの」と質問することで、相手の意見をより深く「理解したい」という気持ちだった。それに気づいたとき、相手との対立を恐れて妥協することなく、相手の意見に真摯に向き合う彼女たちを、心の底から尊敬した。心の底から自分なりに相手の考えを理解できるようになるまでは、決して「確かにそうだね」と流すことはない。また、自分と相手の考えが似たようなものであったとしても「私もそう思うよ」で終わらせるのではなく「こんな考え方だってできるよね」と、より話を深めようとしていた。

彼女たちの「理解したい」という思いは、授業中の話し合いにとどまらなかった。日本の年中行事や生活スタイルにとっても興味を持ち、限られた授業時間内にも、多くのことを質問してくれた。彼女たちは純粋に、日本とフランス間の文化の違いを知り、楽しんでいるように見えた。私も、彼女たちの反応を見たり「フランスの学校ではこういうのが主流なんだよ」といった話をきいたりするのが楽しくて、たくさん質問した。その度に、新鮮な気づきがたくさんあり、自分が知らなかった世界がどんどん広がっていく気がした。

彼女たちの、相手の発言に向き合って、理解しようとする姿は、私に、気持ちを重んじるだけでなく、考え方のものを理解しようとする向き合うことも、相手を大切に思い「尊重する」ことにつながる、と教えてくれた。もちろん、相手に不快な思いをさせないようにと、気配りを欠かさない言葉遣いは、思いやりにあふれた、とても美しいものだ。しかし、人と意見をぶつけあい、お互いに理解しようとするこなしには、気づけないことも深められないこともたくさんある。相手が気を悪くするかも、と遠慮するがために、自分の疑問や意見を殺してしまうことがあるのなら、それはとてももったいないことだ。

文化や価値観、考え方の違う人々が関わり合い、共に生きていく社会。一人一人に気持ちがあり、思いやりをもって接するべきだというのは決して忘れてはいけない。そのうえで、時に意見をぶつけ合うことは、その人のもつ考えそのものを認め、大切に思うために必要不可欠なことだと思う。お互いへの理解を怠らず、向き合う姿勢は、人々がお互いを認め合い、協力しあえる社会を築き上げるだけでなく、きっと私たち自身の心も、新たな発見が絶えない、豊かなものにしてくれるはずだ。